



理事長就任にあたって



ドラム缶工業会理事長
鋼管ドラム株式会社
代表取締役社長
谷口 勲

近藤徹理事長(川鉄コンテナー社長)の後を受け、50年の歴史を持つドラム缶工業会の第18代目の理事長に就任されましたが、まずは業界を取り巻く環境をお聞かせください。

「2002年のドラム缶の生産、出荷をみますと、1-3月期は在庫調整が続き、前年同期比水準を下回りましたが、4-6月期は在庫調整が進展したことに加えて輸出が好調に推移して、1-6月累計では前年同期比0.8%の生産増を記録しました。年間では1,200万本台(2001缶)を見込んでおりますが、最近の経済環境や化学など需要業界の動向から判断しますと、楽観できる状況ではございません。加えて製造コストの50%以上を占める鋼材価格の引き上げが予想されており、収益面でも厳しい状況に直面しております」

業界の直面する課題を含めて抱負をお願いします。

「ただいま申し上げました通り、ドラム缶業界を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、近藤前理事長の掲げた方針を踏襲して着実に実行していくつもりですので、ご支援よろしくをお願いします。ドラム缶工業会はまず、初めに課題として取り組んでいくことは業界各社の経営安定、健全な発展の実現です。ドラム缶の生産・出荷が低迷するなかで、メーカーとして極限までの合理化、コスト削減を行ってきましたが、鋼材など原材料価格の上昇が避けられず、収益を圧迫していることを需要業界の方に是非とも認識していただきたいと思っております」

新役員紹介

| | | |
|--------|---------------------------------------|--|
| 【理事長】 | 鋼管ドラム(株)代表取締役社長 | 谷口 勲 |
| 【副理事長】 | ダイカン(株)代表取締役社長 東邦シートフレーム(株)代表取締役社長 | 辻元 康作 村上 靖 |
| 【常任理事】 | 200リットル缶関係 中小型缶関係 ペール缶関係 | 日鐵ドラム(株)代表取締役社長 川鉄コンテナー(株)代表取締役社長 大同鉄器(株)代表取締役社長 新邦工業(株)代表取締役社長 今井 忠 近藤 徹 羽田 隆司 関根利三郎 |
| 【委員長】 | 企画委員長 技術委員長 業務委員長 ペール委員長 | 鋼管ドラム(株)取締役 川鉄コンテナー(株)常務取締役 日鐵ドラム(株)取締役営業総括部長 大同鉄器(株)常務取締役 大野 良司 清野 芳一 高木 建 榎田 温 |

ドラム缶のリサイクルも重要な課題になっています。

「その意味で更生缶業界との連携強化の実効を挙げるものが求められています。振り返りますと、昭和45年には新缶約850万本に対して、更生缶は約300万本とドラム缶出荷の80%近く占めた時期もありますが、現在は新缶、再生缶がそれぞれ1,200万本という需要構造になっています。環境問題に対する社会的関心の高まりのなかで、再生缶業界とこれまで以上に協力関係を深め、一体感を大事にしながら、リユース・リサイクルの着実な前進に取り組むつもりです」

国際連携についてはいかがですか。

「これまでSSCI(米国ドラム缶工業会)、SEFA(欧州ドラム缶工業会)およびAOSD(アジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会)との定期的な会合を通じて情報・意見交換を行っております。現在国連の輸送専門家委員会において、ドラム缶試験方法の統一をはじめ、ISO(国際標準化機構)による規格問題など国際的な検討テーマが増えております。欧米アジアのドラム缶業界と手を携えて、ドラム缶メーカーからの情報を発信していきたいと思っております」

今年は工業会発足50周年の記念すべき年ですね。

「記念行事や50年史の発行などを計画しておりますが、同時に次の50周年に向けた業界の基盤強化、健全な発展を目指した新たな取り組みを開始する年でもあります。そのためにも工業会は初心に立ち返り、ドラム缶および関連業界の発展に貢献できるように努力する決意です」

ユーザー訪問

今回は
出光石油化学徳山工場様
です



会社概要

| | |
|---------|---|
| 商号 | 出光石油化学株式会社 |
| 設立 | 1964年9月10日 |
| 資本金 | 174億円 |
| 代表取締役社長 | 厩橋 輝男 |
| 本社 | 東京都墨田区横網一丁目6番1号 国際ファッションセンタービル |
| 工場 | 千葉工場(千葉)、徳山工場(山口) |
| 研究所 | 化成品研究所(山口)、生産技術センター・ 樹脂研究所・樹脂テクニカルセンター(千葉) |
| 支店 | 名古屋・大阪 |
| 営業所 | 浜松・広島 |
| 従業員数 | 2,098人(2002年4月1日現在) |
| 売上高 | 3,331億円(2001年度) |
| 経常利益 | 14億円(2001年度) |

出光グループは1911年(明治44年)の創業以来、「事業とは人間の可能性の追及であり、社会の中心は人間でなければならない」という“人間尊重”の経営理念をもとに生活や産業に欠かせない石油や化学製品の安定供給に取り組んできました。この人間尊重の理念は“消費者本位”の営業方針や“公害のない地元に愛される製油所づくり”として具体化されています。



徳山工場の特徴から聞かせてください。

出光興産は全国6ヶ所に製油所を配置し、国内で最大級の精製能力を持っていますが、九州・四国・中国地方を中心に供給している徳山製油所は1957年(昭和32年)に当社にとって初めての製油所として操業を開始しました。出光石油化学徳山工場は製油所に隣接して1964年(昭和39年)にエチレンプラントを完成しました。操業の目的が徳山・新南陽石油化学コンビナート企業に対するエチレン、プロピレンなどの原料を供給することで、現在のエチレン生産能力は年産45万トンになっています。製油所と石化工場が一体化していることが特徴で、各種原料の授受はもとより、電力、スチームなどのユーティリティや廃水処理設備などを相互利用して効率的な生産を行っています。

徳山・新南陽地区はわが国最大の塩化ビニル生産基地になっており、原料のエチレンは慢性的な不足が続いていることから、年内完成を目標にナフサ分解炉の増設を進めております。これによってエチレン能力は年産62万3000トンに増強されます。またプロピレン系誘導品では(株)ヤマ徳山製造所内で年産20万トンのポリプロピレンプラントを来年初め完成予定で建設中です。当社のもうひとつの拠点である千葉工場は、エチレンから誘導品までの一貫型の総合石化コンビナートを形成しているのに対して、徳山工場はコンビナート各社への原料供給に加えて、BTX、パラキシレン、スチレンモノマー、シクロヘキサン、ポリブテン、IPソルベントなど化成品の生産を行っていることが特徴です。



徳山工場
業務課 課長
片岡邦夫氏



徳山工場
業務課
福田卓正氏



徳山製油所
安全環境室
衛藤憲生氏

地域に配慮した工場運営に取り組んでおりますか？

1957年の操業開始から周囲にグリーンベルトを設け、緑豊かな公園工場としてスタートしました。工場の安全対策は順調な生産活動を維持し、国際競争力の決め手になると考え、地域社会に迷惑をかける事故の根絶に取り組んでいます。その一環として“全員参加の製油所・工場経営”のTPM運動に着手、運転管理・品質管理・安全管理・環境管理などあらゆる面で高い信頼性を受けております。

環境面では1996年にISO14001の認証を取得しましたが、これはわが国の素材企業のなかでは最も早い時期に取得した1社です。また、化学業界が国際的な連携に基づいて取り組んでいるレスポンスブル・ケア(RC)活動にも参加しております。今年度はPRTR法が施行され、そのデータが初めて集計される年ですが、徳山市と徳山地区で生産活動を行っている主要化学企業5社が協力して、住民の方を対象にした説明会を年内にも開催することを計画しています。化学物質に対する不安が懸念されているだけに、データに基づいて化学物質の危険性を科学的かつ分かりやすく説明するリスクコミュニケーションの重要性が指摘されておりますが、何しろ初めての試みで、これから説明会の進め方を十分議論して、実施したいと考えています。今回の説明会では騒音や悪臭対策、廃棄物の削減・リサイクルなど環境安全全般を含めて地域の方にわれわれの環境に対する取り組みを説明するつもりです。



物流の現状を教えてください。

出荷形態はパイプが53%、船が44%、ローリーが1.4%、ドラム缶が0.6%という比率になっております。ドラム缶は200リットル缶が年間約7万本、ペール缶・角缶が7万本弱になっており、充てん物は液状ゴム(ポリBD)、ポリブテン、IPソルベント、シクロヘキサン、トルエン、キシレンなどです。物流コストの削減から小口出荷を減らそうとした時期もありますが、



顧客満足度(CS)の向上と工場の稼働率引き上げから最近では若干増加傾向にあります。一方でこれまでローリーで納入していたユーザーの一部からは、タンク等の貯蔵設備の負担を減らすためにドラム缶に切り替えたいという要望が出ています。またペール缶や角缶は計量の手間が省けるということで根強い人気があります。ただ、徳山工場は充てん設備の能力が限界に達していること、消防法による保管スペースの制約からこれ以上ドラム缶の使用を増やすことは難しく、使用量は横ばいが予想されます。

ドラム缶を使用する際に最も注意を払っている点は。

CSを高める観点から千葉工場に「カスタマー・サポート・センター」を今年7月に開設して、24時間フリータイムで受注しております。また徳山工場の製品は毒劇法(毒物及び劇物取締法)の対象になっているものが多いこともあって、受注をした段階で充てんしておりますが、ごみなどの不純物を極力

削減させるPPMレベルの品質管理を徹底しております。ドラム缶メーカーには必要な量を毎朝納入していただくなど、当社の品質管理に協力していただいております。

現在最も苦勞しているのは、ドラム缶の内部へのゴミの混入です。ドラム缶メーカーは全品チェックによって、当社に納入される段階ではゴミは排除していただいておりますが、ドラム缶の生産時点と、充てん時点の温度差によって内部がバキューム化されて、充てんする段階でキャップ部分から外部の空気と同時にゴミを吸い込むケースがあります。とくに夏場に発生しやすい悩みです。ドラム缶の包装材質の改良など協力はいただいておりますが、ユーザーの要求が一段と厳

しくなっており、CSを高めるために引き続き検討をお願いしております。

ドラム缶のカラーに対してはどのようなお考えですか

当社の製品は基本的に化成品であり、コスト削減の狙いもあってドラム缶の色は紺色に統一することを目指しています。内容物に関してはドラム缶の上部にラベルで記載しています。80%程度は紺色に切り替っておりますが、ユーザー指定のドラムがあり、紺色に白の鉢巻を巻いたタイプ、水色、緑色の4色を並行して使用しています。

本日はどうも有り難うございました。

「ドラム缶」から「コラム感」



柴野 正裕
ドラム缶工業会 前専務理事・事務局長

昭和7年(1932年)9月10日生
出身地 佐賀県佐賀市
出身校 佐賀高校(現佐賀西高校)青山学院卒
昭和31年 ドラム缶工業会(当時の名称は、工業協会)事務局に就職
以来42年余 事務局業務に携わる
平成9年9月 専務理事・事務局長退任
私のモットー「仕事は楽しく」



その2

13階のわが家にもアブラゼミが何匹も訪れ、体を小刻みに震わせて鳴き尽くし、朝ベランダや玄関先で動かないセミを幾つも見つけた。

朝日新聞・天声人語によると、セミは地上に現れてから懸命に鳴きつづけ、1、2週間で命尽きるので「はかなさ」のたとえによくつかわれるが必ずしもそうとはいえないとのことである。そこだけ見れば、その通りだが、セミの幼虫の時代は長く、短くても2、3年、種類によっては10年から17年地中で暮らすので、昆虫界での寿命は決して短い方ではないとのことである。

ドラム缶工業会の50周年記念史の編纂作業もいよいよ大詰めに近づいてきた。半世紀にわたる工業会の業務・行事などを漏れなく追いつづけ、或る事象、一行の説明についてもその正確を期すために可能な限りの資料を集め、関係者から話を伺ってきたが、果してこれだけでよいのかとふと不安を感じた。工業会にもセミの幼

虫時代に相当する時期があるはずだ。昭和7年にわが国で最初にドラム缶製造専門工場が設置され、その後、昭和13年に東部・西部ドラム缶工業組合が組織化されたが、専門工場の設置から工業会設立までの20年がその時期に当たるのではなからうか。そうとすれば、工業会の存在はこの時代を含めた70年を見据えないと正しい視点での50年史にはならないと思うが、現状で70年の歴史を追跡するには戦災、事務所移転、関係者の物故などあまりにも制約が多すぎて、今では手のとどかない叶わぬことばかりとなっている。セミの鳴き声もアブラゼミからミンゼミ、ツクツクボウシへと主役が代わり、ヒグラシになるとやがて夏も終わりとなり、間もなく9月10日工業会の創立記念日を迎えるが、セミの声を聞きながら「はかなさ」ならぬ「むなしさ」を感じて記念史編纂作業を続けている。

シンガポール・上海 化学産業視察日記



須谷 淳 団長

私たち15名は6月9日から15日の1週間、シンガポールと上海の化学産業を視察した。シンガポールではエチレンセンターを中心とした石油化学企業などを視察。また、上海では躍進する化学企業と、稼働して5年目を迎えたKISCO（上海崎勝金属容器有限公司）を訪問し、精力的に見聞した。日本の化学産業を海外から見つめ直すという化学工業日報主催の企画だが、参加者皆々、意義ある視察になったと思われる。

参加者リスト

順不同・敬称略

| No | 氏名 | 企業名 | 所属 |
|----|----------------|-------------------|---------------|
| 1 | 須谷 淳 | 川鉄コンテナ（株） | 取締役 |
| 2 | 近石 保 | 川鉄コンテナ（株） | 伊丹工場総務グループ次長 |
| 3 | 八尾 朝夫 | 川鉄コンテナ（株） | 伊丹工場設備室次長 |
| 4 | 田辺 誠一 | 鋼管ドラム（株） | 管理部長 |
| 5 | 石井 文男 | 鋼管ドラム（株） | 営業本部東京営業部長 |
| 6 | 小池 哲弘 | 鋼管ドラム（株） | 技術開発部課長 |
| 7 | 兎耳山 俊 | 日鐵ドラム（株） | 営業本部東京支店支店長 |
| 8 | 中川 浩 | 日鐵ドラム（株） | 営業本部東京支店課長 |
| 9 | 中野 秀 | 日鐵ドラム（株） | 営業本部東京支店課長 |
| 10 | 三品 健司 | 東邦シートフレーム（株） | 品質管理グループ主任 |
| 11 | 前川 雅彦 | ダイカン（株） | 営業第一部 |
| 12 | 西村 正博 | （株）山本工作所 | 営業部第一営業室長 |
| 13 | 金子 賢三 | 新邦工業（株） | 営業部 部長 |
| 14 | 大原 博司 （事務局） | （株）化学工業日報社 | 編集局流通経済グループ記者 |
| 15 | 横山 透 （添乗員） | 菱和ダイヤモンド航空サービス（株） | 部長 |

（所属、役職は視察現在です）

6月9日(一日目)

出発は関東組と関西組とに分かれて出国。シンガポール空港で合流した。すでに夕刻ということもあり、ホテルへと直行したが、宿泊するマンダリンホテルは町の中央、オーチャード通りに面した五つ星ホテル。(当然、プール付きとなるが、ピッチリ詰まった行動予定の中では水着に着替える余裕すらなかった)。その日の夕食時は、日本でワールドカップの日本対ロシア戦が開催されていた。食事中に団員の携帯が鳴り、「勝った、勝った」と、喜び合うが、現地添乗員も一緒に日本の勝利を喜んでいて、シンガポールでは賭けが合法化されているという。

6月10日(二日目)

視察が始まった。視察初日は三井フェノール、住友ケミカルシンガポール、PCS(シンガポール石油化学)、PSA(シンガポール港湾公社)を訪問した。少々、緊張気



PCSで記念撮影

味の中での視察スタートとなったが、外気温が朝から30度を越え、まだ、体が暑さに慣れる前ということも加わり、初日から疲れた団員もいたと思われる。そして、夕刻にはスクールが降ってきた。日本の夕立に似ているものの、とても、外を歩ける状況ではない。その中をも、バスで港湾施設を見て回った。現地の方々は「すぐやみますよ」と、言うのだが、この雨は翌日まで続いた。雨上がりは樹木、花々へそそぐ赤道直下の陽がキラキラと映える。



ケミカルウイークの記者、スティーブンも通訳として登場(左)

6月11日(三日目)

住友商事ケミカル、EDB(シンガポール経済開発局)を訪問。シンガポールという国を徐々に理解してくる。

順調に発展してきたシンガポール経済だが、今後は順風か、否かに疑問をもち始めた団員もいたはず。原料立地でも、消費地立地でもないところでの工業生産、港を有効利用したビジネス案件がこれまで通りアジア地域の中で、また、世界経済の中で機能するか、見届けるしかない。これまで東南アジアを牽引してきた力に期待したい。

6月12日(四日目)

シンガポールから上海へと移動した。町並みが整っていたシンガポールからの移動ということで、上海の雑多化した住居、ビル群が印象に残る。橋、道路、トンネル、ビル、公共施設など建設ラッシュとなっているが、特にマイホームブームでマンション建設がすさまじい。一年で町並みが変わるといわれた上海だが、今では半年という。

6月13日(五日目)

上海塗料有限公司、上海華誼集団公司を訪問。中国では美意識、衛生面への配慮が日本と比べ、まだまだと見える。それが現地企業の運営に表れている気がするが、外資企業の長所を上手に取り入れたところや、グローバル化が順調に進んだところは際立つところがある。数多くの国営企業、合資企業はまだ、収益力に乏しいが旺盛な需要力に支えられているようだ。



上海塗料では昼食会に招待され、挨拶する須谷団長。



上海華誼で。会話は上海語ではなく、英語でした。当然通訳が必要となります。化学工業日報の中国取材班との合流で、松岡記者が通訳。

6月14日(六日目)

立邦塗料中国(日本ペイント中国)、KISCOを訪問。前日に続き、需要の力を企業側の数値からまざまざと見せ付けられた。ニーズに合えば売れるという常識は世界共通だが、そのレベルが違いすぎる気がする。日本国内でも景気刺激は住宅建築を活性化させることが一番と、過去に優先されてきた経緯があるが、上海でのマンションブームは想像以上に産業全般を活気付けさせている。家電はある程度、普及しているとみられ、次にくるのは自家用車か?



KISCOで、記念撮影。

6月15日(七日目)

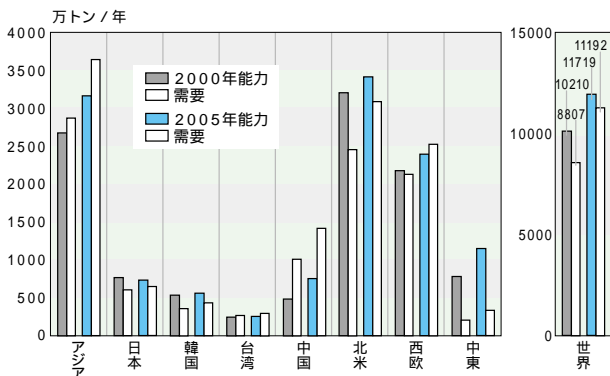
午前中は自由行動。午後、上海新空港から日本へ。慌ただしかった視察が今日で終わるが、景観を眺め、その空気を吸っているだけでも日本と異国との違いを感じる。また、シンガポールでも中華料理がおおかったが、上海では毎食が中華料理となった。日本食が恋しい……。航空会社はJALでよかった(機内食が日本食)。

終わりに

今回の視察目的は日本の化学産業を1990年代に躍進が目覚ましかつたシンガポールと、今、世界から注目されている中国の上海を訪れ、垣間見ながら見比べてみようというもの。団員皆、各々の感触を得たことと思うが、川鉄コンテナ伊丹

工場の近石保総務グループ次長と八尾朝夫設備室次長がまとめた「エチレン生産の概況」と、チャイム2002・7(日鐵ドラム社内報)に掲載された中野秀日鐵ドラム営業本部東京支店課長の一文をここに置き、この場の締めとさせていただきます。

世界のエチレン能力及び世界のエチレン換算需要



日本の化学業界の動向は、今後ますます中国の動向に左右されるようになるだろう。特に従来日本が主力としてきた汎用化学品の生産は、内需を除き中国に奪われるだろう。日本の化学工業が生き残る道はスペシャリティ化・ファイン化である。現実に日本の化学業界は近年シフトを始めており、包装業界にも影響を与えている。私見だが、ドラム缶業界にこれから求められるものは、内容物の高級化・ファイン化に伴うドラム缶の広義のクリーン化が主たる命題になってくると思う。

チャイム2002.7より

シンガポール・訪問先概要

シンガポール(S\$1=約76円)

面積642平方Km(淡路島とほぼ同じ。)

人口300万人

化学産業

インフラ整備、立地、税制面等の条件を整え、ジュロン島へ世界最大級のケミカルアイランドを作り上げた。

エチレン生産200万トン/年(2007年以降100万トンの増設計画。)

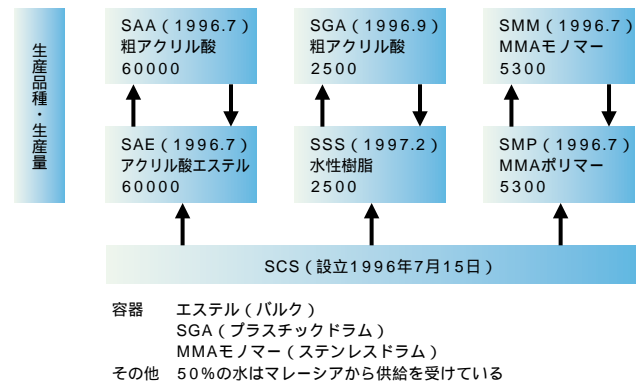
その他

自動車は年間4000台の登録しか出来なく、その購入権を得るため入札制度がある。(相場は230万円と非常に高い。)

車種は日産サニーが人気があるとのこと、購入価格は400万円と非常に高い。(生活必需品は安い。)

スミトモケミカル シンガポール(SCS)

(単位t / 年)



ミツイフェノール シンガポール

設立: 1999年4月15日。

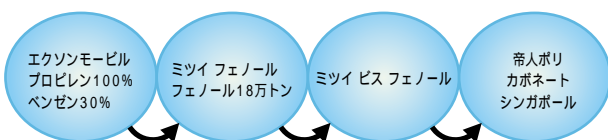
隣接するエクソンモービルから原料ベンゼンとプロピレン供給を受け年間フェノール20万トン・アセトン10万トンを生産しミツイビスフェノールへ供給。

ミツイビスフェノール シンガポール

設立: 1997年6月20日。

フェノール、アセトンを原料としてビスフェノールA21万トン/年を生産、隣接する帝人にポリカボネートの原料として供給。

原料の供給はパイプラインでつながっている。



シンガポール石油化学(PCS)

1977年住友化学工業50%・シンガポール政府50%(後にシェルに譲渡)にて設立。エチレン110万トン、プロピレン60万トンの生産能力(年間)をもち、住友化学工業が運営をリードしている。

1982年 第一期プラント完成

1984年 商業生産開始

1997年 第二期プラント稼働

売上高: 1,450百万S\$(2001年)

その他:

・4直交代体制で要員は20%余裕を持っている。(徴兵制度)

・法人税は10年間ゼロ11年目から5年間10%と優遇。

・マーケットは東南アジアの消費及び中国への輸出。中東諸国との価格競争もあり、誘導品を中心に付加価値を高めた製品を供給する。

PSA Cooperation Limited

港湾事業：ロジスティクス事業を展開している。
 東南アジア地区におけるハブ港：世界第二位の荷扱い量を誇っている。
 ・港湾事業 コンテナターミナル 4カ所。
 総面積：339ヘクタール。
 1400コンテナ/年を処理。(10万コンテナの置き場)
 ・ロジスティクス事業 サンマイクロシステムズ等の世界的システムメーカーや世界の物流・輸送会社と提携。
 (ヴォパック他と日本ではK-Line、山丸など。)

シンガポール経済開発庁(EDB)

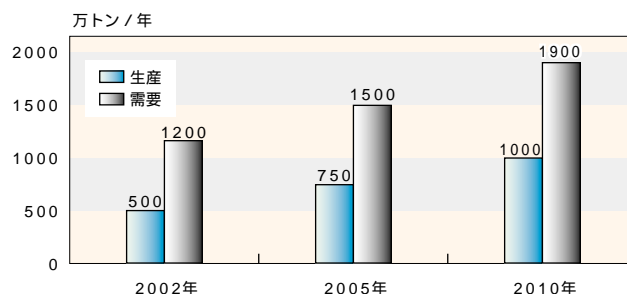
電子・バイオ化学・物流・サービス(教育)分野の発展戦略を計画・実行。
 ・空港・港湾における情報サービスの高度化を通じて、生産性・サービスの質の向上を図り国際的な輸送拠点を目指す。(グローバル物流ハブ。)
 ・物流大学の開設：ロジスティクスの最適化を作り出す人材育成。



住友商事(シンガポール)

シンガポールの石油化学は政府主導によるインフラ整備が進み、日本と比べてインテグレートされていることが大きな特徴。

(1)中国のエチレンの生産と需要。



上記の需給の差が海外調達で補われると見ている。

(2)中国はインフラ整備が遅れている、カントリーリスクも有る。

中国に石化を投資する目的は何か検討中。

(投資額 エチレン100万トン設備800億~1000億 誘導品まで2000億~3000億。)

上海・訪問先概要

上海

中国人口：13億人(公称)
 中国の'02年の政府活動重点施策
 内需拡大と経済の高成長維持
 農村経済の発展加速と収入の増加
 WTO加盟対応と対外開放のレベルアップ
 積極財政政策の継続 1500億元(2兆4千億円)
 市場経済秩序の整理・規範化

上海 HUAYI グループ

営業品目：基礎科学、医薬、有機化学、染料、塗料、ファインケミカル、化学プラント。

グループの将来展望。

成長率：向こう3~5年。

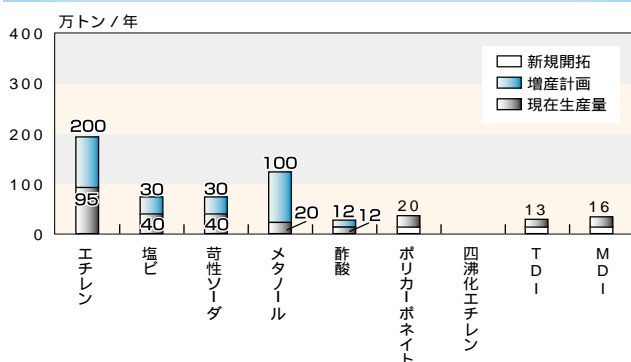
...10%の伸び。(輸出：10%、輸入：6~7%)

新規計画：天然ガスパイプライン。(上海 シンキョウ・ウイグル)

TDI, MDIなど。

* 東洋一の金融センター構想に向け邁進中。

生産量と生産計画



KISCO 上海崎勝金属容器有限公司

設立及び市場環境。

設立：1998年4月。

市場環境：華南地域の東部地区の新缶需要。

250~300万缶/年。

(中国全体では、1000万缶/年...正式統計がない??)

新缶メーカー：大手5社(KISCO、パナリヤ、リム、無錫四方、永康)

...各20% その他:中小17社 *KISCOのみリン酸鉄処理。

同地区GDP等：年11%づつ2005年まで継続予想。

(2005年上海地区大型エチレンプラント稼働予定。)

エチレン95万トン 290万トン。

鋼材市況：2002年5月セガード発行 鋼材急騰。3600元/t(55.8千円/t)

46千円/tUPになる(無錫四方材質上問題有り。現在使用せず)

板厚別使用比率：1.2/1.0/0.9=35/54/11(川鉄/宝山=50/50)

製品価格：130~140元/缶(2015~2170円/缶) 1700~1800円/缶

(付加価値税17%含む。F/S時の70%レベル)

業績：日系・欧米系重要家---4.5万本/月(化学/潤滑油・塗料・70/30)

2001年7~12月...黒字化、2002年1~6月...黒字見込み

工場規模

敷地：22,350m²(建屋面積 5,528m²。法規制 緑地比率高い。)

生産能：5万缶/月(350缶/H)

従業員：スタッフ/現場/他=23/59(パート8名含む)/11 合計93名。

労働時間：8時間/日。21日/月(労働時間40H/週、残業16H/月...協定。)

製造工程

製缶比率：内面缶 40~50%(他社より比率高い)、オープン缶 15%。

外面工程：1ステージ 天地+胴ビード間、

2ステージ 両サイドのチャムとビード間。

(外面でストライプ塗装可能。)

マーク：マーク需要60%。

上海塗料有限公司

設立：1915年国営。

1995年民営化。(株式の80%以上は国が保有)

国内塗料メーカーでは最大。

売上高：13～14億円。(201.5～217億円 15.5円/元)

...1999年はどん底であった。

工場規模：国有部門 9工場&1研究所。

合併部門 6合併会社。(BASF等)

営業品目：コイル用塗料(PCM) 建築塗料、船舶用、自動車用、その他
(人工衛星用、酸化鉄顔料(2工場 2万トン/年)、助剤・合成樹脂。(ポリエステル、アクリル、ポリウレタン、エポキシ))

その他(使用容器等)：0.2tmm-20Lタイトペール、上下ビートのラグタイプ。

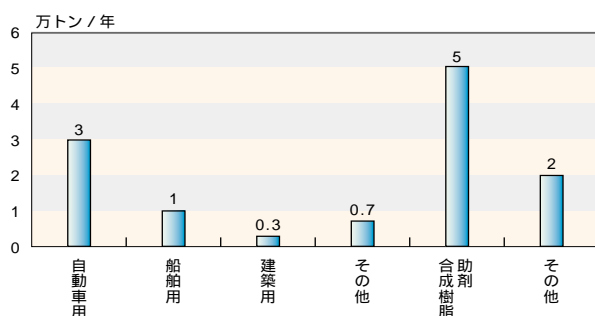
水溶性は、プラスチックペール(バケツ替わりに再使用希望多)

家庭向けの1.7～4L缶。

空缶梱包は、1缶づつポリ袋に入れ5缶結束。

ドラム缶使用量は、少ない。輸出は、1トンコンテナ。

上海塗料の生産量



ペール缶購入価格：12～20元/缶(186～310円)

ペール缶メーカーは、上海に複数有り。漏れ・ペール外れ等無い

従業員給与：工場長 5～6万円、作業員 3～4万円

立邦塗料(中国)有限公司

日本ペイントの東南アジア進出。

1962年 シンガポールに合併会社設立。

1968年 工場設立以降マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピンに設立。

1973年 アジア地域を管轄する“NIPSEA”グループを編成。

グループは、25工場、6000名の従業員規模。

立邦塗料

1992年 12月中国(上海)設立。従業員1200名。

敷地内R&D建設中。(8月頃完成)

1992年 10月広東設立。従業員700名。新工場建設中。

1995年 7月廊防設立。従業員700名。新工場建設中。

営業品目

建築用塗料、自動車用、2輪用塗料(1000万台市場)、プラスチック用塗料、
家電用塗料(粉体)コイル用塗料(PCM)重防食塗料。(橋梁、プラント、海洋)

*当初は、建築用塗料からスタート 建築ブームにのり業績拡大。

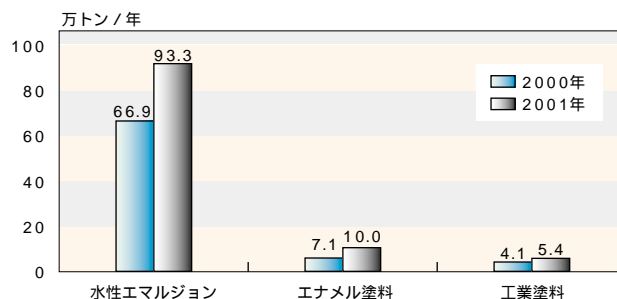
*建物内外壁塗装は、入居者が塗料及び塗装を手配負担する。

その他(使用容器等)

0.4tmmラグタイプペール缶。一般向け4L缶。

ドラムは、自動車向け極一部。

立邦塗料の生産量



2000～2001年の伸び率：39.1% ペール缶30万缶/月販売

生産量の8～9割が、一般用・PCM用を含んだ建築用

テレビCMで、受賞

2008年 北京五輪、2010年 上海EXPO

平成14年(1～6月)ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

単位：千本

| 缶種 | 用途 | 用途別 | | | | | 合計 | 前年同期比 (%) |
|--------|--------|-------|--------|-------|------|-------|--------|-----------|
| | | 石油 | 化学 | 塗料 | 食料品 | その他 | | |
| 200L缶 | | 818 | 4,922 | 267 | 83 | 154 | 6,244 | 100.8 |
| ペール | | 5,849 | 4,729 | 367 | | 319 | 11,264 | 95.4 |
| 100L缶 | | 5 | 71 | 6 | 1 | 2 | 85 | 93.1 |
| 50L缶 | | | 107 | 6 | | 26 | 139 | 80.6 |
| アス缶型 | | | | | | | | 0.0 |
| その他容器缶 | | 4 | 239 | 微 | | 11 | 254 | 100.2 |
| 200L | 亜鉛鉄板缶 | | 35 | 1 | 1 | 6 | 43 | 94.8 |
| | ステンレス缶 | | 7 | 微 | 1 | 微 | 8 | 96.8 |
| | 小計 | | 42 | 1 | 2 | 6 | 51 | 94.9 |
| 中小型 | 亜鉛鉄板缶 | | 80 | | | 35 | 115 | 100.1 |
| | ステンレス缶 | | 3 | | | 微 | 3 | 64.1 |
| | 小計 | | 83 | | | 35 | 118 | 92.2 |
| 合計 | | 6,676 | 10,193 | 647 | 86 | 553 | 18,155 | 97.1 |
| 前年同期比 | | 95.5 | 97.6 | 102.1 | 80.4 | 103.8 | 97.1 | — |
| 構成比 | | 16.6 | 75.1 | 4.2 | 1.2 | 2.9 | 100.0 | — |

(注)構成比は、ドラム缶の出荷トン数の構成比。

第4回ICDM国際会議開催さる



国際ドラム缶製造業者連合会(略称ICDM:International Confederation of Drum Manufacturers)第4回国際会議が6月3日～6日にSEFA(欧州ドラム缶工業会)をホストとしてフランスで開催され、世界19か国から総計215名が出席しました。

ICDMはドラム及びペールの安全で効率的な製造及び使用を促進し、環境的にも安全な運用状況を確立することを目指して1994年に設立された国際フォーラムです。この目的のためICDMは3年に一度国際会議を開催し、技術や各国の容器をめぐる環境上の規制などの情報交換を行っています。今回はその4回目の国際フォーラムです。なお次回は3年後に日本で開催することになっています。ご参考に以下に特記事項を記します。

1. 日本の発表:

セッション7(各地域の市場動向)で高木建業務委員長(日鐵ドラム(株)取締役)が日本の市場動向に関して発表を行いました。

セッション4(技術会議)で菅技術委員長(鋼管ドラム(株)常務取締役)が“ドラム缶工業会の最近の環境問題に関する活動”について発表しました。また小西部長(川鉄コンテナ(株))が“日本のVOC規制及びドラム缶業界に対する影響”について発表しました。

2. SEFAの市場動向に関する発表概要:

《SEFA - WG2(業務委員会相当)委員長、Marc Jaeger氏発表概要》

SEFAのカバーする地域はヨーロッパ、中東、アフリカの104カ国

SEFAの会員は2001年末現在14カ国45社。

統計上の捕捉率は約90%。

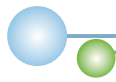
ドイツ14社、フランス3社、英国6社、ベルギー3社、スペイン4社、オランダ3社、スイス1社、デンマーク1社、フィンランド1社、ギリシャ1社、ポルトガル1社、アイルランド1社

SEFA生産高統計:(次ページ上段参照)

IBCの動向:

ヨーロッパでは現在年間約2百万の複合IBC(Composite IBC)が生産されている。これはドラム缶1千万本に相当する。

IBCの市場成長率は年間約10%とみられる。



SEFA生産高統計:

| 年 | 国数 | 会社数 | 小型ドラム | 年 | | | | 備考 |
|------|----|------|------------|------------|-----------|------------|------------|-------|
| | | | | タイト型 | オープン型 | 合計 | 合計 | |
| 1999 | 13 | (45) | 10.690.110 | 30.816.963 | 8.567.630 | 39.384.593 | 50.074.703 | +6.9% |
| 2000 | 14 | (45) | 10.334.108 | 31.009.647 | 9.010.495 | 40.020.143 | 50.354.250 | +0.5% |
| 2001 | 14 | (45) | 9.930.519 | 30.124.867 | 9.127.846 | 39.252.713 | 49.183.232 | -2.4% |

(注)1. 小型ドラム:18リットル以上184リットル以下、厚さ0.5mm以上。
 2. 大型ドラム:185リットル以上250リットル以下。
 3. 2000年度の生産高は過去最高。

3. 米国の市場動向に関する発表概要:

《SSCI(米国ドラム缶工業会)会長、John F. Heric Jr.氏発表概要》

オランダ会議以降、ドラム缶業界及びSSCIは多くの試験にも係わらず、堅調に推移している。ドラム缶業界及びSSCIに広く影響する以下の二つの問題がある。

- 1) 米国経済の製造部門は2000年7月以降リセッション状態であるが、つい最近回復の兆しを見せ始めた。オランダ会議以降、SSCIの会員数社が廃業あるいは統合している。増大する国際企業からの要求に応えるため、戦略的統合も数社見られた。
- 2) 米国鉄鋼業の危機は、ドラム缶業界にも大きな影響を与えている。多くの鉄鋼業者が倒産或いは廃業に追い込まれている。外国の鉄鋼メーカーは去る3月にブッシュ大統領が出したセクション201鉄鋼セーフガード(緊急輸入制限措置)により、米国での販売はますます困難になっている。米国のコールド製品のスポット価格は今年約40%値上がりし、今後さらに値上がりする見込み。鋼材の供給も約20%減。SSCIは米国消費業界のセクション201のような手段に反対する動きを支持する。

SSCIの活動:

- 1) 火災実験の広報活動の推進;消防法の改訂を促進する。(米国の消防規制は連邦法ではなく、州法によるため、各州に対する広報活動が必要)
- 2) ドラム・ペールゲージ形状(gauge configuration)に対するUN最新マーキング基準の確立。口金閉め、UN試験手続き、ガasket性能などのガイドラインを作成するため

の試験の実施。新世界カラー基準受け入れを決定。

- 3) 鋼製ドラム・ペールの優位性をPRするため、技術論文の発表、トレードショーなど顧客に対するPR活動の推進。

米国のドラム缶生産高:

ドラム缶:約3千万缶 鋼製ペール缶:約7千万缶

(注)米国公正取引委員会との関係で米国のドラム生産高は商務省に委託して統計を取っていたが、これも中止になったため、現在統計数字は手に入らない状況となっています。

4. 決議事項:

閉会にあたり、以下のとおり決議されました。

各工業会の承認を条件として、ICDMは密閉缶のUNマーキングレベル勧告を支持する。

各工業会の承認を条件として、ICDMは外装塗料のRALシステム言及を支持する。

(注)RAL:ドイツ商品安全・表示協会

品質保証マーク 染料基準 ブルーエンジェル(エコマーク) 原産地証明マークの4つの機能を有する協会。ドラム缶内部清浄度に関する問題はICDMワーキンググループを設定して検討する。

内面塗料のタイプの問題はICDMワーキンググループで検討する。

オープン缶のUNマーキングレベル勧告については、ICDMワーキンググループで検討する。

新社長登場



日鐵ドラム株式会社
代表取締役社長

今井 忠

「管理者である前に指導者であれ」と、語る。なるほどと思える。「業務を指示するのに、わざわざプレッシャーを掛ける人がいるが、自分に出来ないことを部下に任すのなら、むしろ頼むという気持ちを持つくらいがちょうど良い。」と、説く。企業は人材が勝負となる。それには優秀な人材確保も必要だが、適材適所はもっと重要なことだ。経営者として厳しい顔をもつ一方で、人と人、組織としての調和などを大事にしているようす。また、ビジネス以外でも大事にしていることは同様で、ボランティア活動にも積極的に参加し、「職種や年齢に関係なくフランクにお付き合い出来る楽しみがある」という。

幼少ころは。

自分は昭和19年生まれ。東京都府中市の出身で小さいころは物作りが好きでした。ただ、今と違って、プラモデルとか、組立グッズが市販されている時代ではありませんので、自分で材料を工夫して作るということが多かったですね。少し大きくなって学生時代には、徹夜での実験レポートまとめで、毎晩、計算尺との格闘でした。

経営者の一人として、今の日本経済は。

グローバル化、そして空洞化が進み、国内のみのビジネス領域では業容を拡大するのは、難しい時代に入っています。ゴルフに例えるなら、普通のゴルフ場と違い、全英オープンの開催会場のミュアフィールドのようにフェアウェイはとて狭い。力任せに打つと深いラフに捕まる。消極的ならパーもとれない。それでもプロはパーは当然、パーディーを狙う。日本のビジネスも同様で、少ないチャンスの中で、積極性と正確さの両方が求められる。

趣味は。

読書はよくします。最近読んだ本で、「ビジョナリーカンパニー 飛躍の法則」(著者ジェームズ・C・コリンズ、翻訳山岡洋一)がありますが、これは若い人たちにもお奨めします。飛躍をもたらした企業の指導者は、カリスマ的でなく、謙虚であったなど、世間の常識を覆す分析です。読んでくだされば私の言いたいことも理解していただけたと思います。

信条(モットー)は。

「喜びは、朝起き出でて昨日まで無かりし花の咲ける見る時」

* * * * *

「コスト意識の徹底化で生き残る」と、ビジネスに関する口調は厳しいがインタビューの間は笑顔が絶えない。温厚な人柄が見てとれる。家庭では理想のお父さん!

会 員

川鉄コンテナ(株) 協和容器(株) 鋼管ドラム(株) 斎藤ドラム缶工業(株) 山陽ドラム缶工業(株) 新邦工業(株)
ダイカン(株) 大同鉄器(株) (株)東京ドラム罐製作所 東邦シートフレーム(株) (株)長尾製缶所 日鐵ドラム(株)
(株)前田製作所 森島金属工業(株) (株)山本工作所 (株)ユニコン

《賛助会員》

エノモト工業(株) 三恵マツオ工業(株) 丹南工業(株) (株)大和鐵工所 三喜プレス工業(株) (株)城内製作所
東邦工板(株) (株)水上工作所

ドラム缶工業会 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 (鉄鋼会館6階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

e-mail : drum.pail@jsda.gr.jp

URL : <http://www.jsda.gr.jp/>

ひびき

No.35(平成14年9月10日発行)

発行人 ドラム缶工業会

専務理事 藤野 泰弘

本誌は再生紙を使用しています。